

1 観点別の調査結果概要

(1) 小学校

※目標値は、標準的な時間をかけて学んだ場合、期待される正答率を示したもの。(単位:%)

教科	観 点	第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
		目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均
国語	国語への 関心・意欲・態度	75.6	81.1 81.0	65.6	74.5 71.8	68.1	74.0 68.3	65.6	77.8 76.4	65.6	71.3 70.6
	話す力・聞く能力	71.0	75.8 75.3	63.0	72.6 67.8	71.1	74.8 70.6	75.0	87.5 87.4	60.0	67.2 67.6
	書く能力	78.1	84.6 84.8	65.6	75.7 74.3	61.4	69.7 62.3	58.5	72.1 70.2	67.3	70.7 70.0
	読む能力	66.4	71.2 69.6	64.3	75.3 70.9	63.9	75.0 68.9	73.4	81.3 79.7	72.2	78.5 78.3
	言語についての 知識・理解・技能	90.0	95.4 95.7	80.9	90.1 89.1	67.4	75.3 72.8	68.4	72.9 72.9	69.2	74.6 74.9
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度					64.5	69.0 62.9	66.0	70.5 68.5	64.2	66.3 68.5
	社会的な 思考・判断・表現					63.7	69.7 65.5	65.2	66.9 68.4	65.0	66.7 67.7
	観察・資料活用 の技能					71.3	75.9 75.1	67.9	67.4 69.0	69.4	70.0 72.2
	社会的事象につい ての知識・理解					76.4	81.4 78.6	70.2	73.2 71.8	68.3	70.1 70.9
算数	算数への 関心・意欲・態度	65.6	66.8 66.5	56.5	60.1 58.2	67.5	75.0 71.0	59.3	62.5 62.8	40.0	40.0 37.2
	数学的な考え方	70.7	72.1 72.5	63.9	71.4 68.6	60.6	69.3 66.1	60.2	62.5 63.8	56.1	54.7 56.1
	数量や図形に ついての技能	82.5	86.5 86.2	76.9	80.9 80.0	76.1	81.5 79.8	71.4	72.1 74.2	71.0	69.0 71.7
	数量や図形につい ての知識・理解	83.1	84.6 84.6	69.8	76.2 75.6	74.0	80.8 77.0	70.3	70.9 72.6	68.6	67.2 69.9
理科	自然事象への 関心・意欲・態度					67.7	69.1 73.0	61.1	60.4 66.3	70.4	69.5 77.2
	科学的な 思考・表現					58.4	62.2 62.5	54.8	50.0 56.3	62.6	61.7 67.7
	観察・実験の技能					64.4	64.7 66.5	71.3	75.8 79.3	60.0	56.5 64.4
	自然事象につい ての知識・理解					67.2	69.7 71.5	66.3	64.9 70.7	68.2	66.5 73.1

- ※ 区平均正答率が、全国平均正答率以上である観点
 区平均正答率が、全国平均正答率よりも低い、全国平均正答率の-5ポイント以上である観点
 区平均正答率が、全国平均正答率の-5ポイント未満である観点

<区平均正答率と全国平均正答率との比較について>

- 区平均正答率が全国平均正答率以上である観点は、昨年度は全69観点中17観点であったが、本年度は39観点と大きく増加している。
- 国語は、第2・6学年の一部の観点を除いて、区平均正答率が全国平均正答率以上である。
- 社会は、第5・6学年の多くの観点で、区平均正答率が全国平均正答率より低い。
- 算数は、第5・6学年の多くの観点で、区平均正答率が全国平均正答率より低い。
- 理科は、全ての観点で、区平均正答率が全国平均正答率より低い。特に、第5・6学年の多くの観点で、区平均正答率が全国平均正答率の-5ポイント未満である。

(2) 中学校

※目標値は、標準的な時間をかけて学んだ場合、期待される正答率を示したもの。(単位:%)

教科	観 点	第1学年		第2学年		第3学年	
		目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均	目標値	区平均 全国平均
国語	国語への 関心・意欲・態度	66.7	73.4 71.5	65.6	67.6 64.1	67.2	68.1 70.6
	話す・聞く能力	67.7	73.4 71.9	61.1	61.3 61.2	72.5	66.3 70.5
	書く能力	60.4	67.4 65.7	66.3	72.1 65.7	61.8	69.4 70.2
	読む能力	65.3	71.6 70.0	59.0	65.6 64.6	62.4	70.3 70.6
	言語についての 知識・理解・技能	72.6	77.0 78.4	74.4	79.0 78.7	72.6	75.3 76.2
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度	55.7	52.5 57.8	52.3	48.1 51.3	51.3	49.9 52.5
	社会的な 思考・判断・表現	56.1	53.7 58.2	48.0	42.8 45.4	49.0	44.5 47.2
	資料活用の技能	62.0	58.8 62.8	55.7	51.8 54.9	57.1	52.3 55.9
	社会的事象についての 知識・理解	60.0	52.7 57.9	56.4	49.5 54.4	59.4	55.1 59.4
数学	数学への 関心・意欲・態度	58.2	57.5 59.9	51.7	50.7 51.8	52.0	51.5 53.5
	数学的な見方や考え方	59.2	57.5 59.6	49.2	48.1 49.4	54.5	53.2 55.4
	数学的な技能	71.5	73.5 73.8	62.1	62.1 61.7	62.2	62.8 63.0
	数量や図形などに ついての知識・理解	58.2	56.8 59.6	53.1	51.7 53.7	59.3	59.2 60.0
理科	自然事象への 関心・意欲・態度	57.3	53.5 60.0	49.4	43.2 46.7	58.0	55.0 60.3
	科学的な思考・表現	58.9	56.8 62.7	50.2	45.3 47.9	51.5	50.5 53.5
	観察・実験の技能	74.2	74.6 78.4	61.4	58.0 60.5	64.4	54.0 61.5
	自然事象についての 知識・理解	57.0	47.6 56.6	59.1	53.2 58.0	60.3	57.0 62.8
英語	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度			65.0	67.6 67.6	63.3	64.3 64.8
	外国語表現の能力			53.8	53.1 54.4	49.1	47.5 47.9
	外国語理解の能力			61.4	61.2 61.0	68.3	72.3 72.8
	言語や文化についての 知識・理解			62.9	60.8 62.4	65.4	70.4 69.6

※ 区平均正答率が、全国平均正答率以上である観点 区平均正答率が、全国平均正答率よりも低い、全国平均正答率の-5ポイント以上である観点 区平均正答率が、全国平均正答率の-5ポイント未満である観点

<区平均正答率と全国平均正答率との比較について>

- ・ 区平均正答率が全国平均正答率の-5ポイント未満である観点は、昨年度は全59観点中17観点であったが、本年度は8観点と大きく減少している。
- ・ 国語は、第3学年の全ての観点で、区平均正答率が全国平均正答率より低い。
- ・ 社会は、全ての観点で、区平均正答率が全国平均正答率より低い。
- ・ 数学は、ほとんどの観点で、区平均正答率が全国平均正答率より低い。
- ・ 理科は、第1・3学年の多くの観点で、区平均正答率が全国平均正答率より5ポイント以上低い。
- ・ 英語は、ほとんどの観点で、区平均正答率と全国平均正答率がほぼ同等である。

2 学識経験者からの提言

聖徳大学大学院教職研究科 教授 廣嶋 憲一郎

● 調査の現状と改善の方向性

本年度の学習状況調査の結果を拝見すると、小学校では全学年にわたって目標値を上回り、全国平均正答率をも上回っているものが数多く見られます。中学校においても、全体的に目標値を上回るか目標値に近づいている傾向が見られます。このことは、ここ数年にわたる先生方の努力の結果であると敬意を表します。学力の問題は一朝一夕にして成果が見えるようになるとは限りません。地道な取組の積み重ねが功を奏しているものと思われまます。

一方で、解決すべき課題もかなり明確になってきているように思います。小中学校共通の課題としては、地図や年表などの資料を読み取る能力、複数の資料を読み取って考え表現する能力があります。今後、これらの課題を改善するとともに、新学習指導要領が目指す授業改善の方向性も視野に入れ、子供たちの一層の学力向上を目指していきたいものです。そのために、幾つかの提言をさせていただきます。

(1) 地図や年表などの資料を読み取る能力

資料活用能力は、「情報を収集する」「情報を読み取る」「情報をまとめる」など、社会科の学習では大きな役割を担う能力です。地図帳や地球儀、年表などは絶えず活用することによって、児童・生徒が自在に使えるようにする必要があります。

① 地図に関する技能

情報を収集する活動では、地図や地球儀などから、位置関係や形状、分布、面積、記載内容などの情報を集める際に活用することができます。

情報を読み取る活動では、集めた情報を基にして、位置関係や形状、分布などの全体的な傾向や方位、記号、高さ、区分などの個別の情報を読み取る学習が考えられます。

情報をまとめる活動では、位置や方位、範囲などの情報を整理して白地図上に表す活動が考えられます。また、学年の発達段階を踏まえて、区や都、日本などのおおよその形をフリーハンドで描けるようにすることも効果的です。

地図に関する技能を定着させるには、日常の授業は勿論、家庭学習などでも習慣的に地図に触れる機会をもつことが大切です。

② 年表に関する技能

年表の活用では、出来事やその時期、推移などの情報を集める活動、年号や時期、出来事の前後関係などを読み取る活動、調べた事柄を年代順に年表に整理したり、読み取った事柄を時代ごとに整理したりする活動などが考えられます。

年表に関する技能の定着も、地図の技能同様、日常の授業や家庭学習などで、学習の道具として辞書的に活用できるようにすることが大切です。その際、年表上の出来事と絵や写真などを関連付けて示すことによって、年表が単なる暗記の道具になりがちな実態を改善することが期待されます。

(2) 複数の資料を読み取って考え、表現する能力

資料には、地図や年表以外にも、絵画的資料、文章資料、統計資料などの様々な形態があります。複数の資料を組み合わせる場合には、次のようなステップが有効です。

① 個々の資料を丹念に読み取る。

個々の資料を丹念に読み取るとは、例えば、資料の情報を

- ・表題などから資料が伝えようとしている情報が何かを読み取ることができるようにする。
- ・部分に着目してありのままに読み取ることができるようにする。
- ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えることができるようにする。
- ・資料が伝えようとしている情報を解釈することができるようにする。

などのステップを踏んで、資料が伝える情報を正確に読み取る力を付けるようにすることです。

② 複数の資料を比較、関連付け、総合する。

複数の資料を比較、関連付け、総合するとは、例えば、

- ・複数の資料を比べて、異なるところや似ているところを見出すことができるようにする。
- ・複数の資料をつなげて、それぞれがどのように関係しているかを指摘できるようにする。
- ・複数の資料が伝える情報をまとめ、どのようなことがいえるかを指摘できるようにする。

など、資料を重ね合わせて、社会的事象の意味や意義、特色などを捉える力を身に付けるようにすることです。

③ 論理的思考力を働かせて表現できるようにする。

「考えたことを表現する力」の育成には、それぞれの学校段階に応じて、次のような成長が期待されます。

- ・根拠や理由を明確にして、自分の考えを論理的に説明することができる。(小学校)
- ・主旨が明確になるように内容構成を考え、論理的に説明することができる。(中学校)
- ・適切な資料、内容や表現方法を選び、自分の考えを効果的に説明したり論述したりすることができる。(高等学校)

いずれの段階においても、根拠や理由、原因と結果などの関係を明確にして、相手に伝わるように説明や論述することが必要です。このような論理的思考力を働かせた表現力を育てるには、社会科の授業が具体的な知識の獲得だけで終わることなく、「なぜ」「どうして」といった事象の背景を考察できるようにすることが必要です。また、国語をはじめとした各教科等の授業においても、論理的思考力を働かせた授業場面を工夫することが大切です。

(3) 新学習指導要領が目指す授業改善の方向性

新学習指導要領では、「主体的対話的で深い学びを実現する授業改善」が求められています。とりわけ「深い学び」の実現には、「社会的な見方・考え方」を用いた考察・構想や説明・議論等の学習活動が不可欠であるといわれています。「社会的な見方・考え方は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法である」と説明されています。例えば、小学校社会科では、「社会的事象の見方・考え方」は、社会的事象を位置や空間的広がり、時期や期間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉えることです。このような見方・考え方は、中学校社会科地理的分野では「社会的事象の地理的な見方・考え方」、歴史的分野では「社会的事象の歴史的な見方・考え方」、公民的分野では「現代社会の見方・考え方」としてつながっていきます。社会科の学習では、「社会的な見方・考え方」を働かせることによって、社会の中で汎用的に使うことができる概念等に関わる知識を獲得したり、学んだことを生活や社会に向けて活用したりできる「深い学び」も期待できます。

「深い学び」の実現には、「主体的・対話的な学び」が深い学びにつながるよう指導計画を工夫する必要があります。問題(課題)解決的な学習を展開する中で、社会的事象の特色や意味などを、「社会的な見方・考え方」を働かせて追究する学習が求められます。このことは、小中連携による授業研究を通して検討してほしいものです。